【重点目標実績報告】

1 利用児童の確保

- 1) 平成 30 年度は、年度当初で入所児童 13 名であった。年度当初からほぼ毎月のように入所児童があり最大で 21 名の入所児童となった。通所については新規の利用はなく、措置解除児童が 1 名あり年度末には 1 名となった。新規入所児童のうち男女別で見ると男子児童 8 名、女子児童 5 名で最大入所児童数時には、男子児童 13 名、女子児童 8 名で男子児童が圧倒的に多い。
- 2) 入所児童のうち、暴力や暴言等の問題行動が著しい児童がおりその対応に苦慮した。特に職員に対する暴力では、職員が外傷を負い入院治療を要する状態となり、今後の問題行動のある児童については児童相談所との協議と医療や警察、司法などの関係機関との濃厚な連携が必要不可欠と感じている。
- 3) 心理的な課題や他者（児）との関わりの不適切さ、粗暴行為（暴言や暴力等）、触法行為などの問題行動への治療的な関わりが求められるが、職員の資質の向上も求められる。これまで児童数が少ない状況で生活支援や心理治療等を行っていたが、児童数が増えるにしたがい集団へ介入することも多く求められる。個別的な関わりと児童集団への治療的・指導的介入能力の向上が必要である。
- 4) 二人部屋が 8 部屋あり、それぞれの児童の特性から容易に二人部屋として設定していくことが困難である。児童の生活スペースも手狭であり、談話室の利用時には十分な空間が確保し難い。また、心理療法の実際場面では個別的な面接やプレイセラピー等の活動を行う部屋が児童の増加により確保することが困難となってきている。児相からの面接がある場合は特に顕著となる。
- 5) 今後は児童の生活空間を確保するとともに、治療や活動が行いやすい空間を確保していきたい。そのためにも共同調理場の活用は必要である。

2 職員の専門性、資質向上

- 1) 平成 29 年度末で 2 名の心理士と 2 名の児童指導員を採用した。職員確保が困難な状況ではあるが、平成 30 年度の中途採用として児童指導員と保育士を各 1 名ずつ計 2 名を採用した。直接処遇職員のうち開設当初から在籍している職員は 4 名（H31.4 現在）であり、知識と経験の蓄積が危ぶまれる。専門性、資質の向上は当然培っていかねばならないが、在職年数を引き上げなければならぬ。
- 2) 新規雇用した職員については、生活リーダーや個別対応職員等から児童についての生活場面を通して、援助の考え方や具体的な対応について学ぶ機会を確保した。
- 3) 児童虐待防止の推進や児童処遇の向上、性に関する指導力向上、健康に関する知識と対応、事務処理の向上等のために、外部研修への参加や施設内の勉強会を開催し、専門性及び資質の向上を図った。
- 4) 施設内での研修として外部講師を招き実施した。外部研修等で受講する人数には限りがあり、先駆的に施設運営や生活治療にあたっている講師を招き可能な限り多くの職員が受講できる機会を確保した。

3 一人ひとりの入所児童への個別的な治療と生活支援

- 1) 各入所児童に対しては、児童相談所（以下、「児相」と略す。）の援助指針に則った処遇を中心に、児童の生活と心理療法担当職員の評価を元に自立支援計画を立案し処遇にあたった。無断外出を繰り返す児童はいなかったが、暴言や物にあたる粗暴な行為を行なう児童は居り、行為の抑制と振り返りを行なうとともに、心理療法や生活指導を個別に行なった。
- 2) 入所児童のうち大多数が医療機関を受診していた。一部の児童については、これまで継続的に受診していた医療機関から、入所を契機に施設が契約している医療機関（瀧井病院）に変更の承諾を得てから受診することとなり医療との連携を取りやすくした。
- 3) 平成30年度の特徴として、小学生を中心とした入所児童が多かった。特に低学年の児童については、粗暴行為が前面に表出する前のより早期に生活指導や心理治療に介入できる。

4 施設整備について

- 1) 入所児童の増数とともに二人部屋対応での処遇が必要となってきた。児童同士のマッチングもさることながら、物理的な環境をどのように設定していくが悩ましかった。また、面接室やプレイルーム、食堂や厨房等のスペースが手狭であり、旧共同調理場の活用が喫緊である。
- 2) 財源については運営費を金融機関から借り受けている状況であるが、児童数を増やしていかなければ安定した施設運営は難しく、施設の整備は必要である。

【実践事項】

1 施設運営

1) 総合環境療法による児童の治療

「生活」、「教育」、「治療」の三つの分野が連携を取って、施設内で行っている全ての活動が治療であるという「総合環境療法」の立場に立って生活指導や治療を行うことを意識付けしながら各種研修やカンファレンス等を行った。

2) 児童の人権の尊重

- ① 虐待等に関する研修会に参加し人権についての理解を深めた。
- ② 行動化の著しい児童で身体的な抑制を行わざるを得ない場合であっても、職員の対応に十分注意した。
- ③ 食事や入浴、睡眠など児童が日常的に安心して生活ができるよう環境面の整備や生活時間への配慮、職員や他児との関係性等に配慮して児童対応を行った。
- ④ 個人情報の保護に関して、資料作成にあたり児童の氏名記載時の注意や書類の持ち出し、管理等について確認と周知を行った。

3) 職員の専門性、資質の向上

- ① 宮崎県児童福祉施設協議会や子どもの虹情報研修センター、全国情緒障害児短期治療施設協議会等が開催する研修会に参加し、資質の向上に努めた。
- ② 施設の契約医療機関（瀧井病院）からの医師（木村医師）を交えたカンファレンスや志學館大学の山喜教授からの事例検討、先行施設である嵐山学園から早川施設長を招き総合環境療法や発達障害、愛着障害に関する研修会を行った。

4) 児童の公教育の保障

日向市立東郷学園小学部若竹分校、中学部若竹分校に入所児童は全て通学する。分校への登校にあたり施設と分校間での情報の共有と処遇、教育面での配慮などについて情報交換を行った。また、今年度は各児童について施設の方針や計画と分校の教育計画を双方で共有し協議検討した。

児童は分校の教育課程に則って教育を受けた。分校が同一建物であり、登校の行きやすさや不穏時の一時下校、再登校が行いやすい環境である。

5) 関係機関との連携

- ① 入所児童の受け入れにあたり、各児相と情報交換を行った。入所後は、定期的な訪問を依頼し児童担当職員と児童の施設での生活や心理状態についての情報交換を行った。児相によっては濃厚な情報交換を行えつつある。
- ② 宮崎県児童福祉施設等協議会に加入を継続している。施設長会議や各種研修会に参加し、資質向上と他施設職員との交流や事業を通してのつながりを意識しながら県内施設との連携を図った。
- ③ 地域で問題となっている児童の処遇について、小学校や市教育委員会、警察、児相とのケース会議に定期的に参加し、情報や対応の共有を行った。
- ④ 数名の児童は宮崎市や門川町への医療機関に受診しているが、施設の非常勤医師への受診は多くなっている。問題行動が頻発し施設対応が困難な児童がいたが、医療機関への入院依頼と調整に苦慮したが受け入れていただける医療機関が増えてきた。
- ⑤ 施設見学者や視察の希望は、開設初年度よりも減少したが、児童心理治療施設への理解を深めていただくことを念頭に、分校と協調して現状を中心に説明した。

6) 問題発生時の対応の徹底

- ① 著しい暴力や器物損壊等の行為障害や無断外出を行なう児童や暴言、暴力、物を叩く等の行為を行なう児童がみられ、時に身体的に抑制することが必要な場面があった。抑制時は児童と職員への外傷防止のため複数名の職員で対応した。
- ② 分校での授業中に不穏となり、教職員の指示に従わない場面もあった。分校からの連絡により施設職員が分校で児童を抑制し施設に連れ戻すことがあった。
- ③ 暴力傾向の高い児童による職員への暴力で、職員が外傷を負った。入院による手術が必要となり、判断に苦慮したが結果的に警察への被害の申し出を行った。これまでも粗暴行為の著しい場合は警察による介入を求めてきたが、警察からも協力的な対応を行うとのことであった。
- ④ 問題行動発生後の児童対応（ふり返り等）については、その都度各担当や個別対応職員等が行い、自分の特性についての理解と適切な対応について指導を行い、再発の防止に努めた。児童の特性から直ぐに問題行動（行動化等）が改善することは困難であるが、日常での生活指導や行動療法、心理療法を行いつつその都度の対応を行った。
- ⑤ 問題行動のあった場合は、その状況と直接的な対応、今後の対応方針等について、担当児相と保護者へ連絡をおこなった。

2 児童支援

1) 総合環境療法による治療

情緒的な問題や虐待によって深い心の傷を持つ児童などに対して、個々の児童の状態と治療

目標に合わせて、「生活」、「教育」、「心理治療」、「医療」の三つの分野が連携を取って、施設内で行っている全ての活動が治療であるという「総合環境療法」の立場に立って児童支援にあたった。

2) 自立支援計画に基づく治療

- ① 児相が示す自立支援計画方針に基づいて入所直後は生活指導及び治療を行った。治療にあたっては医師の指導を受けながら個々の児童ごとに、6ヶ月毎に自立支援計画の見直しと評価を行った。
- ② 施設での支援にあたっては、児童とその家族の人権を尊重し児童福祉法を遵守した。児相と十分な連携をはかり、児童本人の意志と家族の意向を尊重して治療を行った。
- ③ 本来、自立支援計画は職員と児童が協働で作成するものであるが、現状として児童や保護者への説明が行えていない。

3 職員

1) 職員の専門性の向上

- ① 外部研修会への参加は資質向上に非常に効果的であり、全国児童心理治療施設協議会(以下、「全児心協議会」と略す。)、子どもの虹情報研修センター、宮崎県児童福祉施設協議会等が実施する研修会に可能な限り参加した。
- ② 職員の退職に伴い、開設当初から勤務している職員が減少してきている。児童を担当することで専門性や処遇力が培われることは非常に大きい。知識を得る場と実践の場が均衡の取れたものになるよう児相からの措置に積極的に対応した。

2) 組織的な業務遂行

- ① 職員は組織の一員としての自覚を持って融和を図るとともに連携を意識して取り組んだ。職員会議、リーダー会議、ケース会議等を通して、課題や問題の解決を行った。
- ② 平成30年度の組織は前年度と大きな変更はない。しかし、報告や相談、連絡を軸として確実な情報の共有と連携を図りたい。また、指示や結果報告等の定着を目指したい。

3) 児相・学校等関係機関との連携

児童の治療にあたっては、児相、家庭、学校、医療機関等から正確な情報を得る努力をし、関係機関と緊密な連携を取りながら治療や生活指導を進めることを意識して行った。

4) 就業規則の遵守

児童に対する福祉サービスが十分に行えるように、職員は就業規則に定められた規則を遵守するよう各部署に就業規則を配布している。

4 家族治療と家庭との連携

児童の問題は保護者(家族)の影響が大きく作用している場合が多く、児童の生活のみに焦点を当てた治療では不十分であるため、児相と緊密な連携を取り、保護者(家族)面接等を行い、家族の主体的な問題解決能力を高めるようにした。

保護者(家庭)との連携は家庭支援専門相談員を中心に担当職員と協力して行った。帰省が可能な家庭は定期的に帰省を促し、親子関係の修復を図った。また、週末や年末年始・夏休み等に個々の児童の状態や家庭の状況を判断して家庭への帰省を促した。特に被虐待児童を帰省させる場合は、児相とも緊密な連携を図った。

5 リスクマネジメント

1) 避難訓練と防災

定期的な避難訓練を実施した。避難の動線の確認と行動について繰り返し行った。分校との合同で地震時の避難訓練や消防訓練を実施した。また、夜間の避難訓練も実際に行った。

2) 防犯対策について

児童福祉法第 28 条により入所措置の児童がおり、職員会議の中でその対応について周知した。

3) 整備点検

日頃から設備・備品の点検を行い、刃物類や燃料、医薬品、洗剤等の危険物は施錠下に厳重に管理し、遊具・スポーツ用品の管理を徹底した。

4) 施錠の徹底

施設で児童が安心して生活ができるように、外部からの侵入を防ぐための施錠と危険箇所の施錠を徹底した。

5) 児童の所在不明・パニック時等の対応

集団での無断外出や児童同士で話し合い無断外出を行なう児童が散発的にみられ、夜間の無断外出もみられた。

児童が無断外出により所在不明になった場合は、他の児童の生活指導に支障が起こらないように配慮し、複数の職員で迅速に施設内外を捜索し、直ちに施設周辺を捜索するが所在不明を認識してから 30 分経過しても引続き所在が不明であれば、警察署へ捜索の協力要請を検討することとしている。

また、他の児童や職員に対して暴行を行ったり、落ち着かない状況が継続している時には、その児童を他児から離し興奮を鎮める対応を行なった。具体的には静養室の使用を行なうが、複数名の職員での対応を行った。

自傷行為や異食、自殺企図等の問題行動を繰り返す児童がいたが、根本的な治療は困難で様子の観察確認や問題行動後の振り返りと心理的な安定、その後の指導等を心がけた。

6 児童・職員の保健衛生

児童に疾病が生じた場合は、協力医療機関の医師から助言を得たり与薬などを行った。必要があれば他の医療機関を受診するなどの対応を行った。

1) 健康診断

児童は学校で行う健康診断を含めて年 2 回健康診断を受けた。日勤の職員は医療機関で年 1 回、夜勤を行なう直接処遇職員は年 2 回の健康診断を受けた。

2) 検便・予防接種

検便は調理職員（栄養士も含む。）は毎月、他の職員は 2 ヶ月に 1 回実施した。予防接種については、入所時に保護者の同意を得、児童に必要な予防接種を受けさせた。

3) 与薬と医薬品管理

看護師が与薬と医薬品の管理を行い、服薬が必要な児童については医療機関の医師の指示に基づいて与薬を行った。医薬品は施錠下に管理し、与薬の際は職員が服薬を確認した。

4) 感染症の予防

施設内での感染症及び食中毒等の予防を徹底するため、看護師を中心として説明会を行い感染症等の予防に努めた。

5) 産前産後休暇と育児休暇職員

2名の女性職員が妊娠、出産、育児のため休暇中であったが、女性児童指導員が年度途中から職場復帰した。時間短縮勤務と夜勤業務に就業しないよう配慮した。また、職員へ妊娠、出産、育児にあたりハラスメントが発生しないよう配慮と注意を促した。

7 職員会議、ケース会議、運営会議等

定期的に職員会議や各部門の会議、分校との情報交換等を行った。

8 通所部門

平成30年度は2名の通所措置であった。その内1名は過去の退所児童で、もう1名は日向市内からの継続的な通所措置となっている児童である。日向市内からの通所児童については、通所せず関係機関とのケース会議への参加や児相との連携で対応していたが年度末に措置解除となった。

9 給食部門

児童の食生活の改善と健全な食習慣の確立を目指した。栄養士が産前産後休暇等の取得のため、慶城会から出向職員として管理栄養士が勤務している。児童数の増加、栄養士の休暇により調理職員を5名とした。

【平成30年度 職員研修会(外部研修)】

月	日	内 容	参加職員
4月	24	県児童福祉施設協議会 総会・役員会	平野
5月	8 24～25 28	鹿児島自然学園 視察 多床室設定について 全国児童心理治療施設協議会 施設長会・総会 県児童協 心理士委員会	園長、三知代、日吉 園長 園長・副園長
6月	4 7 8 14 28～29	全国児童心理治療施設協議会 研修委員会 県児童協 家庭・里親支援専門委員会 管内裁判所・警察署等関係機関連絡協議会 算定基礎届け事務説明会 子どもの虹 児心施設、医療機関等医師研修	住吉 平野 園長、平野 松葉 瀧井 Dr
7月	6 10 12, 19, 25 25～27	県児童協 心理士委員会 県児童協 施設長会 労務管理研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 全国児童心理治療施設職員研修会	瑞希 園長 松葉 理事長、園長、平野、住吉、瑞希
8月	2 9 23～24 25～27	九州地区児童心理治療施設職員研修会 労務管理研修Ⅳ 社会福祉経営支援セミナー 会計・財務管理研修 会計実務講座 入門研修会	園長、間所、河野 松葉 松葉 園長
9月	7 7 7～8 11 21 25～27	県児童協 心理士委員会 社福経営支援セミナー 発達障がい研修 全児心 研修委員会 アンガーマネジメント研修 社会保険制度講習会 CSP幼児版初級指導者養成講座	瑞希 金丸 住吉 三知代、北林 松葉 瑞希、祖堅
10月	4～5 26 27 27～28	県児童福祉施設職員合同研修会Ⅰ 園田、修作 九州児童心理研究協議会講演 こどものトラウマとそのケア 発達障害とはなんだろう 親子関係再構築事業 ト라우マフォーカスト認知行動療法	園田、修作 間所 修作、宮田 間所
11月	2 7～9 8～9 9 9 13 17～19 21	県児童協 心理士委員会 新設児童心理治療施設職員・新任職員研修 親子関係再構築プログラム事業「安全パートナーリング研修」 県児童協 施設長会 地域援助業務に係る講演会 障がい者自立支援協議会精神部会 会計実務講座 初級コース 家庭・里親支援専門委員会	瑞希 蓮本、田中 日吉 園長 平野 平野 園長 平野

11月	24	会計実務講座 中級コース(施設会計)	松葉
	29	福祉サービス苦情解決セミナー	園長
	29	県北地区児童福祉施設職員研修会(日向)	清子、河埜
12月	27	県児童協 施設長会	園長
1月	8	日向市・東臼杵郡障がい者自立支援協議会	園長、平野
	17	児童養護施設等職員資質向上研修	日吉
	21~22	ファミリーソーシャルワーク研修会	平野
	22	コンプライアンス&ハラスメント研修	園長
	26	ひまわりこぼえ学園研修会 アタッチメントと愛着障害	園長、平野 他4名
	27	宮崎県栄養士研修会	清子
	28	県児童協心理士委員会	瑞希
2月	1	県北地区要保護児童対策連絡会議 10:00- 濱本	園長
	12	県民間社会福祉施設等従事職員共済制度事務説明会	松葉
	14~15	県児童協 合同研修会Ⅱ	金丸、河埜
	21~22	全児心協議会総会、施設長会、施設長研修会	園長、平野
	28	県児童協 第2回役員会総会	園長
3月	4	県児童協 心理士委員会	瑞希
	7	県児童協 家庭・里親支援専門委員会	平野
	11	NICHHD司法面接研修	祖堅
	13	会計財務 決算実務研修	松葉
	26	児童福祉施設関係行政説明会	園長、松葉

【平成30年度 職員研修会(内部研修)】

4月	5	合同職員会	10月	2	リーダー会議
	9	自立支援協議		12	職員会議
	10	リーダー会議		16	リーダー会議
	17	職員会議		18	セラピスト会議
	18	合同研修会		19	合同職員会
5月	25	セラピスト会議	11月	25	法人合同研修会 防災関連
	10	ケース会議		30	臨時リーダー会議
	21	職員研修会		6	リーダー会議
	23	合同研修会		6	児童保護委託前カンファレンス
25	合同職員会	12		セラピスト会議	
31	セラピスト会議	13		職員会議	
6月	5	リーダー会議		20	合同職員会
	6	救急法講習		21	合同研修会
	12	職員会議		27	リーダー会議
	14	ケース会議(日向市)		28	セラピスト会議

6月	19	リーダー会議	12月	3	セラピスト会議	
	21	ケース会議 (分校合同)		7	リーダー会議	
	22	合同職員会		14	合同職員会	
	26	セラピスト会議		18	職員会議	
	27	職員研修会		19	合同研修会	
	27	合同研修会		20	リーダー会議	
	29	自立支援協議				
7月	13	合同職員会	1月	8	リーダー会議	
	13	カンファレンス		10	カンファレンス	
	17	職員会議		15	職員会議	
	17	セラピスト会議		16	セラピスト会議	
	18	合同研修会		18	合同職員会	
	19	リーダー会議		23	カンファレンス	
8月	7	リーダー会議		23	合同研修会	
	23	合同職員会		24	リーダー会議	
	31	職員会議		24	ケース会議	
9月				2月	25	職員研修会
	6	リーダー会議	5		リーダー会議	
	6	セラピスト会議	5		自立支援協議	
	13	職員会議	5		処遇方針会議	
	13	職員研修会 山喜先生 SV	12		職員会議	
	14	//	15		カンファレンス	
	18	セラピスト会議	15		女子棟会議	
	21	合同職員会	19		リーダー会議	
	25	リーダー会議	22		合同職員会	
	26	合同研修会	27		セラピスト会議	
			27		合同研修会	
			28		カンファレンス	
			3月		6	リーダー会議
					11	合同職員会
		15		職員会議		
		21		リーダー会議		
		22		セラピスト会議		
		26	カンファレンス			

【平成30年度 関係機関会議】

月 日	内 容	月 日	内 容
4/20	都城児相 家族面会後の情報交換	10/1	分校スポーツフェスタ打合せ
4/12、23	都城児相 児童面会後の情報交換	10/4	延岡児相 本園との退院後協議
4/26	分校との登校打合せ	10/10	中央児相 新規入所児童情報収集 2名
		10/12	分校との登校打ち合せ
5/2	都城児相 家族面会後の情報交換	11/1	分校との登校打合せ
5/21	都城児相 新規入所児童情報提供	11/2	中3児童 進路打合せ
5/31	都城児相 家族面会後の情報交換	11/14	延岡児相・保護者 面談後の情報交換
		11/15	分校との登校打合せ
		11/26	入院児童ケース会議

6/18 6/19 6/18, 20, 21 22, 27, 28	三者協議 延岡児相・保護者・本園 分校との登校打ち合せ 分校担任と児童担当 情報交換	12/5 12/7 12/10 12/12 12/14 12/17	入院児童ケース会議 分校との登校打ち合せ 分校との登校打ち合せ 四者協議 延岡児相・本人・保護者・本園 中央児相 新規入所児童情報収集 都城児相 児童情報交換共有
7/4 7/12 7/20	処遇会議 延岡児相・本園・高校 四者協議 児相・保護者・本園・高校 分校とオープンスクール打ち合せ	1/10 1/11	分校との登校打ち合せ 延岡児相 関係機関会議
8/8 8/9 8/17 8/23 8/24	中央児相 施設入所児童現況調査 都城児相 新規入所児童情報収集 四者協議 延岡児相・保護者・分校・本園 延岡児相 施設入所児童現況調査 都城児相 施設入所児童現況調	2/1 2/1 2/8 2/10 2/25	都城児相 新規入所児童情報収集 中央児相 新規入所児童情報収集 三者面談 都城児相・本人・本園 中央児相 カンファレンス 分校との登校打ち合せ
9/4 9/7 9/19 9/28 9/28	中央児相 情報収集 分校との登校打ち合せ 中央児相 新規入所児童情報収集 入院児童カンファレンス 児相・病院・本園 分校との登校打ち合せ	3/14 3/25 3/26 3/27	分校との登校打ち合せ 都城児相 児童面会後の情報交換協議 日向警察署 児童の暴力への対応 中央児相 新規入所児童情報収集

【平成30年度 施設・分校行事】

月 日	内 容	月 日	内 容
4/6 4/11 4/25 4/26	始業式 中学部入学式 参観日 避難訓練（分校合同）	10/9 10/19 10/22	スポーツフェスタ 避難訓練（夜間想定） 分校出前授業
5/2 5/5 5/22 5/27 5/30 5/31	春の遠足 こどもの日 お楽しみ会 参観日 芋の苗植え 避難訓練 交通安全教室	11/6 11/22 11/24 11/29、30 11/30	参観日 分校遠足 インフルエンザ予防接種 分校修学旅行 避難訓練
6/6 6/26 6/28	救急法講習 参観日 避難訓練	12/1 12/8 12/17 12/19 12/21 12/24、25 12/28	焼き芋行事 学習発表会 避難訓練 分校調理実習 終業式 クリスマス会 餅つき大会
7/10 7/20 7/24 7/28 7/31	草刈り 終業式 夏休みプールの日 かき氷の日 避難訓練	1/2 1/7 1/22 1/24 1/26	初詣 始業式 避難訓練（地震想定） 参観日 ひむかひこぼえ学園講演会

8/1	登校日	2/3	節分行事 恵方巻きを作ろう
8/11	かき氷の日	2/6	薬物乱用防止教室
8/11	夏祭り 中止により DVD 鑑賞会	2/7	職場体験学習
8/17	かき氷の日	2/28	避難訓練 (夜間想定)
8/21、22	サマーキャンプ 中止により DVD 鑑賞会		
8/27	避難訓練		
8/28	始業式		
9/7	参観日	3/2	ひな祭りイベント
9/11	避難訓練 (分校合同)	3/8	参観日
		3/12	遠足
		3/14	避難訓練
		3/16	中学部卒業式
		3/25	小学部卒業式
		3/29	離任式

【平成30年度 施設見学・視察】

月 日	団 体 名	参加数(名)	備 考
4/2	若竹分校 新任職員施設見学	4	
4/9	県子ども家庭課 課長他1名	2	
4/11	延岡児相 センター長、児相長	2	
5/22	宮崎大学教育学部特別支援教育専攻	4	
6/22	北部教育事務所	3	
7/5	日向市細島・日知屋東民生児童委員視察	20	
8/1	副知事視察 他随行者	10	
8/7	日向市地域活動支援センター	1	
9/11	青朋高校 教諭見学	2	
9/19	みやざき学園視察	2	
10/16	高鍋町障がい者(児)基幹相談支援センター見学	2	
10/22	県社協 施設支援課 視察見学	4	
10/24	教育委員会学校訪問	5	
11/15	有隣園 施設見学	8	
11/21	佐賀県 からっ好学舎分校 見学	3	
1/9	高鍋町教育委員会 視察	2	
1/31	県福祉保健部長 視察	3	
2/8	国立特別支援教育総合研究所	4	
2/22	全児心施設長会 施設見学	16	

【入退所状況】（平成30年度）

入所 平成29年度在籍児童 計13名				退所			
入所年月日	性別	学齢	入所前状況	退所年月日	性別	学齢	退所先
平成30年4月13日	男	小2	自宅	平成30年4月1日	女	中3	自宅
平成30年6月1日	男	小6	自宅	平成30年8月24日	女	中1	自宅
平成30年7月20日	男	中1	自宅	平成30年12月25日	男	中1	自宅
平成30年8月24日	女	小1	自宅	平成31年3月17日	男	中3	自宅
平成30年9月25日	男	小5	自宅	平成31年3月17日	女	中3	自宅
平成30年10月1日	男	小6	自宅	平成31年3月24日	男	中3	児童養護施設
平成30年10月24日	女	小6	自宅	平成31年3月25日	男	中3	自宅
平成30年10月24日	男	小4	自宅	平成31年3月27日	男	小2	自宅
平成30年11月30日	女	中2	児童養護施設	平成31年3月27日	男	中1	自宅
平成30年12月28日	女	小6	自宅				
平成31年2月1日	女	小1	自宅				
平成31年3月1日	男	小6	自宅				
平成31年3月25日	男	小5	自宅				
平成30年度入所児童 計13名				平成30年度退所児童 計9名			

【職員の状況】（平成31年3月31日現在）

職種	人数	職種	人数
施設長	1	心理療法担当職員	3
医師（契約医療機関派遣）	1	児童指導員	6
家庭支援専門相談員	1	保育士	5
個別対応職員	1	支援員	3
事務員	1	管理栄養士／栄養士	1／1
看護師	3	調理員	3
合 計		30名	